



## DxO Optics Pro v6.2 – リリースノート

### Windows 版（ビルド 7826）

#### サポートしているシステム

---

- Windows XP （32 と 64 ビット対応）
- Windows Vista （32 と 64 ビット対応）
- Windows 7 （32 と 64 ビット対応）
- 2GB メモリ奨励（20 メガピクセル／2000 万画素以上の RAW 画像を処理する場合 64 ビットのシステムと 4GB メモリを強くお勧めします）。

#### インストール

---

- .NET 3.5 SP1 Framework がインストールされていない場合、自動的にインストールされます。（ダウンロードには、数分かかります。ダウンロード後、再起動が必要です。）
- 弊社製品をインストールする前に、Windows の最新アップデートをインストールすることをお勧めいたします。

#### v6.1.2 と比較しての新機能

---

- 新プリセット導入
  - 新しいデフォルトプリセット「DxO 新デフォルト v2」。DxO レンズブラー補正による細かいディテール向上（DxO 光学モジュール必要）。
  - 新しいデフォルトプリセット「DxO 新デフォルト v2 - ニュートラルカラー」。「DxO 新デフォルト v2」と設定は似ているが RAW 現像に際しニュートラルな色を採用。
- RAW 画像のノイズ除去機能
  - ディテールの再現を強調するため自動モードを変更。
  - 輝度ノイズ補正をより段階的にするため輝度スライダを変更。
- 新しいショートカットキーと右クリックオプションの導入により、より簡単な操作性とユーザーインターフェースの利便性向上。
- デフォルト出力設定を新規導入。
- 新規サポートカメラ機種
  - Canon 1D Mark IV（スタンダード版とエリート版）
  - Nikon D3s（エリート版のみ）
  - Canon EOS Kiss X4（スタンダード版とエリート版）
  - Sony α 450（スタンダード版とエリート版）

#### v6.2 ビルド7826の改善点

---

- 起動時のクラッシュを解決。

#### v6.2 ビルド7825の改善点

---

- Windows のユーザ名に Unicode の文字（日本語、ギリシャ語等）を使った場合 DxO 光学モジュールが認識されなかった問題の解決。

## 他社ソフトとの互換性

---

- Lightroom v1.4 と v2.x の両方をサポート。

## v6.1.2 と比較しての改善点

---

- 画像ファイルの XMP 情報の保持（これにより Adobe Lightroom との連携を強化しました）。外部エディタを使って DxO Optics Pro に画像を送る前に Lightroom 上で入力されたメタデータが Lightroom に出力される際に保持されます。
- ソフトウェアの動作の安定性向上。
- DxO Optics Pro 起動時の Windows の DEP（データ実行防止機能）のセキュリティーレベル対処方法の向上。
- トーンカーブ編集の簡素化。

## 既知の機能制限

---

- Macintosh と Windows で、プリセットとサイドカーに互換性がない。
- Canon 製のカメラの中には、ヴィネット補正を JPEG 画像に対して行うものがありますが、DxO Optics Pro はこの情報を認識できず、画像のヴィネット補正は無効になります。DxO モジュールは、ヴィネット補正がオフになっている状態の画像に対して補正をかけるように調整されています。このため DxO Optics Pro を使って最適なヴィネット補正をするために、カメラ内蔵のヴィネット機能をオフにして撮影することをお勧めします。
- Lightroom v2.0 のスマートコレクションの参照が DxO Optics Pro からできない。
- 特定のコンフィギュレーション等で、ソフトウェアの動作が不安定。
- Vista 上で v4 で作成したガンマテーブルのついた ICC プロファイルが適切にサポートされない。

## Macintosh 版（ビルド 7652）

### サポートしているシステム

---

- Mac OS X.5（レパード）
- Mac OS X.6（スノーレパード）
- Intel Mac のみサポート
- 2GB メモリ奨励（20メガピクセル／2000万画素以上の RAW 画像を処理する場合 3GB メモリを強くお勧めします）。

## V5.3.7と比較しての新機能

---

- 画質向上のための新機能
  - RAW 現像エンジンの性能向上。高 ISO 感度のノイズ除去。
  - 様々なシチュエーションに合った新規プリセットの導入。
  - 光学補正
    - DxO レンズブラー補正で画像のディテールを強調するための [ディテールスライダ] を新規導入。
    - DxO 光学モジュールがなくても手動光学補正がディストーションとヴィネットで可能。
  - 自動露光補正モード（中心に配慮した平均）導入。
  - よりよい柔軟性とクリエイティブな効果のため DxO ライティング（明度とローカルコントラスト）のスライダの幅を拡張。
  - [カラーモード] パレットのコントラストと彩度の設定精度の向上。

- 簡単な操作性
  - GUI（グラフィックユーザインターフェース）の刷新。
  - 初めてソフトウェアを使う人のために〔ウエルカムスクリーン〕と〔ファーストステップアシスタント〕の導入。
  - DxO 光学モジュールへのアクセス向上（画像補正に必要なモジュールのダウンロードが自動的に検知）。
  - 〔プロジェクト〕ウインドウのサムネイル画像が現補正設定を反映。
- ユーザが自由にカスタマイズできるワークスペース
  - 徐々に補正のコントロールレベルを上げていける 3 つのデフォルトワークスペース導入。
  - 補正パレットを左側あるいは右側にドックしたりアンドックしたり可能。
  - 〔プロジェクト〕ウインドウのドックとアンドック可能。
  - 〔ユーザーパレット〕と〔ユーザーワークスペース〕を好きなだけ作成可能。
- 体験デモ版の試用期間が 31 日間に延長。試用期間を過ぎてもソフトウェアは機能しますが、出力画像にウォーターマークが入ります。ライセンス認証をするとウォーターマークは消えます。
- 画像ファイルの XMP 情報の保持（これにより Adobe Lightroom との連携を強化しました）。外部エディタを使って DxO Optics Pro に画像を送る前に Lightroom 上で入力されたメタデータが Lightroom に出力される際に保持されます。
- **DxO Optics Pro v5.3.7 と比較しての新規サポートカメラ機種。**
  - Canon 1D Mark IV（スタンダード版とエリート版）
  - Nikon D3s（エリート版のみ）
  - Canon EOS Kiss X4（スタンダード版とエリート版）
  - Sony α 450（スタンダード版とエリート版）
  - Sony α 500（スタンダード版とエリート版）
  - Sony α 550（スタンダード版とエリート版）
  - Pentax K7（スタンダード版とエリート版）
  - Panasonic LX3（スタンダード版とエリート版）
  - Panasonic GH1（スタンダード版とエリート版）
- 116 個の DxO 光学モジュール（Mac ユーザ向け）の新規追加により DxO Optics Pro でサポートしているカメラとレンズの組み合わせ数が 2 0 0 0 を突破。

## v 6.2.0 ビルド 7652 の改善点

---

- Mac OS 10.6.5 との互換性の問題の解決。

## ビルド 7650 の改善点

---

- Mac OS 10.6 に搭載されているグラフィックカード Nvidia 7300 GT と 7600 GT との互換性の問題の解決。
- 時に画像の表示スピードが遅くなる問題の解決。

## ビルド 7648 の改善点

---

- 起動時のクラッシュの解決。
- クロップとキーストーン使用時に発生していたエラーの解決。
- Lightroom のカタログ・エクスプローラでサムネイル画像が二重に表示される問題の解決。
- ライセンス認証時のエラー解決。

## ビルド 7645 の改善点

---

- 起動時にアプリケーションがフリーズする問題の解決（プロジェクトウインドウロード中）。

## ビルド 7637 の改善点

---

- DxO レンズブラーの項目が時にグレーアウトしていた問題の解決。

## ビルド 7631 の改善点

---

- V5 のプロジェクト履歴のインポート正常動作。
- フォルダの場所に関して起きていた問題の解決。

## 他社ソフトとの互換性

---

- Lightroom v1.4 と v2.x の両方をサポート。

## 既知の機能制限

---

- **Macintosh と Windows** で、プリセットとサイドカーに互換性がない。
- 画像を複数選択した場合プリセットの適用スピードが遅くなる。
- ソニー製のソフトウェア IDC (イメージ・データ・コンバータ) を使って変更された場合、Sony  $\alpha$  450、 $\alpha$  500、 $\alpha$  550 で撮影された RAW 画像のホワイトバランスが正確でない。
- スタックのマスター画像に適用した補正設定がスタック内の他の画像に適用されない。
- [設定] タブの [ダスト除去ツール] を使うと点線が表示画像上で確認できるが、処理画像には問題がない。
- サイドカーファイルの自動インポート機能が使えない。
- [画像を ICC プロファイル作成のためにエクスポートする] 機能が使えない。
- Lightroom v2.0 のスマートコレクションの参照が DxO Optics Pro からできない。
- Canon 製のカメラの中には、ヴィネット補正を JPEG 画像に対して行うものがありますが、DxO Optics Pro はこの情報を認識できず、画像のヴィネット補正は無効になります。DxO モジュールは、ヴィネット補正がオフになっている状態の画像に対して補正をかけるように調整されています。このため DxO Optics Pro を使って最適なヴィネット補正をするために、カメラ内蔵のヴィネット機能をオフにして撮影することをお勧めします。